



嶋田しづ 「刻みゆく時の流れ」



オーガ フミヒロ 「星飼いの人」

(会員)
伊藤英一
伊東總吉
薄井良昭
太田貞雄
上村真澄
佐藤裕幸
杉野和夫
鈴木忠男
鈴木正道
中井嘉文
野口勉
野原宏
福井豊
福田豊万
堀良慶
和田孝明

(ゲスト)
石田貞雄
大森利佳
和田幸子

(敬称略・50音順)

NPO法人あーと・わの会 通称：「わの会」

第45回放談会



2016年4月29日(金) 13時～16時
於 東京・京橋区民会館 洋室5号室

第45回 放談会

1. 日時 2016年4月29日(金) 13時~16時

2. 場所 東京・京橋区民会館 洋室5号室

3. 出席者(計19名 敬称略:50音順)

<会員> 伊藤英一 伊東總吉 薄井良昭 太田貞雄 上村真澄 佐藤裕幸 杉野和夫
鈴木忠男 鈴木正道 中井嘉文 野口勉 野原宏 福井豊 福田豊万
堀良慶 和田孝明

<ゲスト> 石田貞雄 大森利佳 和田幸子

4. 司会進行:佐藤裕幸 書記:鈴木忠男 写真・編集制作:野口勉

5. 放談会(発表順)

① 上村真澄 (宮崎県よりネット参加)



鬚謳

「ハート Hearts」 シルクスクリーン
90×90cm 制作:1976年
虹の作家で知られています。求めるきっかけは書籍「わたくし美術館」の第1巻の表紙の作品と思えたからです。運命的な出会いでした。ふたつのハートが重なって躍動するような印象。ドキドキ感が空気を振動して鑑賞しているこちらにまで伝わってくる印象が受けられます。



黒木一明

「沖縄の海」 写真・全紙 制作:2006年
私のライフワーク。写真のコレクションの一部です。写真は(人物等より)風景が好きです。私の住まいは住宅地にあり。四方の窓を開放して見れる景色はお隣の住宅という環境の中、風景写真をコレクションする醍醐味は、お気に入りの風景を窓枠ごと仕入れるような錯覚を楽しめるからです。桜の季節は桜の作品を。初夏は海を楽しみます。

初の試みとしてタブレットとスマホを使用したのネット参加でした。
(プロジェクターなど駆使すれば本格的なネット参加ができると思います。)

② 中井嘉文



鶴田吾郎

「森の小路」 油彩・板 4号
制作年：不詳

「層雲峡朝陽山ノ風景」 油彩・板 6号
制作：1950年7月

明治23年東京生まれ。明治36年倉田白羊のもとでデッサンを学び翌年白馬会研究所に入会、40年に太平洋画会に移籍、仲間に広瀬嘉吉、中原悌二郎、中村彝など。大正2年から9年まで朝鮮、満州、ハルピン、シベリアに滞在。帰国、下落合に住む。目白駅で盲目の詩人ワシリー・エロシェンコにモデルを依頼。彝のアトリエで二人の競作というかたちで2枚の絵が誕生。彝の作品は国立近代美術館に鶴田の作品は中村屋に所蔵される。昭和44年1月逝去。

③ 鈴木正道



嶋田しづ（1923年樺太生）

「刻みゆく時の流れ」リトグラフ
27.0×23.5cm 制作：1977年

現在92歳（OR93歳）現役。

1942年女子美術専門学校師範科西洋画部卒業。
早大文学部美術史科にて会津八一（東洋美術史・歌人）に師事。1958年渡仏、仏にて制作、
1980年から主として日本で制作。

私は嶋田氏の色彩に魅かれる。1990年代初め本作品を求めて以来、画廊でたびたび見る。約10年前、池田二十世紀美術館での展覧会は圧巻。この作品を含め3点小品所蔵、ほぼ単色のこの作品が好きです。作家53、4歳頃、パリ時代の作か。昔のハリウッド映画「カサブランカ」を連想。嶋田氏は最もモダンな作家ですが会津八一に師事した点から見ても西洋かぶれの画家ではない。

④ 佐藤裕幸



木下孝則 「静物」 油彩・キャンバス F12号 制作：1952年

バラは木下の作品ではよく描かれ愛情。本は1950年代に読書の婦人像のシリーズが制作され知性を表す。果物は実り、豊穡を表現していると考えられる。木下作品の代表的な静物達が三つ揃っており充実した作品と思われる。また画面の中に制作年号を書き入れるのは木下孝則には珍しい。

⑤ 太田貞雄



木下孝則（1894～1973年）
「少女」 油彩・キャンバス F6号 制作：1953年

東京出身、1918年京都大学経済学部中退、1919年東京大学哲学科中退
1921年二科展初入選、1923年二科展樗牛賞、1924年二科展二科会賞
1926年「1930年協会」創立会員、1926年春陽会会員に推挙、1936年
二科会会員に推挙、1936年一水会創立会員、1958年日本芸術院賞
日展評議委員、一水会運営委員

私が会社に勤務していた時、打合せに使っていた食堂の壁にバレリーナの絵が掛かっていた。最初は絵にも作家名にも関心がなかったが打合せの都度その絵を見ているうちに気に入ってしまい、一枚は持ってみたいと思うようになった。

⑥ 福井豊



武内鶴之助（1881～1948年）「富士」パステル・紙 17.0×22.5cm
制作年：不詳 右下にほとんど見えない鉛筆サイン、紙やけあり。

2～3年前にヤフオクにて入手。画家の山を描いた作品は多いが富士山を描いた作品はあまり無いと思う。

（略歴）1881年横浜生まれ、白馬会洋画研究所に学ぶ。1909～13年渡英、ブラングィン、スワン、クイン、イースト、スタットに師事。ロイヤルアカデミーやインスティテュートに入選。1913年帝国ホテル個展。日本パステル画会顧問。1948年日光で没、享年66歳。

⑦ 和田孝明



野口彌太郎（1899～1976年）
「男の肖像」 油彩・キャンバス F10号 制作：1937年

ヨーロッパで学んだ原色を多用した激しいタッチのフォービズム的体質と優れた色彩感覚をもって戦後の洋画壇における具象系の代表作家としてその地位を築いた。
作者の絵はざっくばらんな線に味わいがある。太めな筆でひゅんひゅんと泳ぐように描いている。目の前のものをきっちり型どおりに描写するのではなく、目の前の空気、目の前の雰囲気ですくい取ろうとしているようだ。絵の具も厚塗りをしていない。

1899年東京・本郷生まれ、1920年関西学園中学部を卒業後、川端画学校で学ぶ。
1929年～1933年渡仏し帰国後、独立美術協会会員となる。
戦後1949年から日本大学教授となる。以後独立展に出品を続ける。1976年逝去（76歳）

⑧ 伊東總吉



野田哲也

「Diary Aug. 4th '77」 木版・シルクスクリーン
32.5×21cm ED.100 制作：1977年

作家自身と夫人の家族写真をもとにした版画で1968年東京国際版画ビエンナーレ国際大賞を受賞してから10年、「日記」の題材はニューヨーク海外研修を経て夫人の出産、二人の愛児の成長の過程へと移る。かたわら身近に目にする小物などもその対象となる。コップに挿した茗荷に花が咲いた事実をとらえて版を重ねて緊張感のある美しい作品に仕上げている。

(参考資料)

「写真を使って<版>の絵を描く」という解説紹介文が「現代版画イメージの追跡」(長谷川公之著・美術出版社)にある。

⑨ 薄井良昭



オーガ フミヒロ(1971年生)

「星飼いの人」 水性樹脂絵の具 P10号 制作：2012年

2015年、幻想的で童話的な優しさを感じ求める。
終戦2、3年後の夏、当時東京下町で見た降るような星空を思い出す。

1971年愛媛生まれ、1991年大阪総合デザイン専門学校絵本科修了。
その後、大阪専門学校絵本科特待生として学ぶ。専門学校修了後、デザイン業界に勤めるがその後独立し絵画の道で生きることを決意し現在に至る。

⑩ 堀良慶



赤松麟作（1878～1953年）

「實り」 油彩・板 22.0×27.3cm 制作年：不詳

赤松の代表作品「夜汽車」は、美術教育者としても知られた画家・赤松のまだ弱冠23歳頃に“白鳥賞”を受けた出世作です。「夜汽車」が制作された1901年当時、三重県津市の中学校教師でした。私は三重県の中学校1年の時、人物画に夢中で挑戦していました。この「夜汽車の」の入った画集を“とても人物表現が良い”と母からもらい勉強したことがあります。三重県にゆかりがあり関西画壇の重鎮であった作家の絵が1点欲しかった。この「實り」が京橋のギャラリーKの年末の売り立て展の最終日に赤札が付いておらず、手に届く価格なので購入を決意しました。田園風景のこの絵は、童謡・歌唱／山田の中の一歩足の案山子を歌いたくなるような楽しい絵です。力が抜けた色彩の美しい良い絵だと思います。

⑪ 杉野和夫



藤島大千（1965年生れ）

「紫禁城」 雲肌麻紙に岩絵の具 6号 制作：2009年

“黄砂に陽が滲む紫禁城に松が青々と立っていました”

1988年高山辰雄に師事（内弟子）、1991年第23回日展に初入選以降入選12回（03年以降無鑑査出品）、1997年第29回日展特選、2002年第34回日展特選、2005年高山辰雄門下生 第1回耕展に「野の花」を出品（松屋銀座）2008年上野松坂屋にて個展、第3回耕展に「石楠花」を出品
2012年NHK水戸文化講座日本画講師、2015年日展準会員に推挙
現在：日本美術展覧会「日展」準会員・審査員、日展日本画部春季展「日春展」会員
茨城県つくば市在住

⑫ 伊藤英一



大谷郁代（1981年生）「女性像」 パステル 4号

日常生活のさりげない仕草をやわらかな色彩と輪郭線で描く作品です。
絵の中にストーリーが感じられ色々な想いが絵をみているとかもし出されてきます。

2000年広島市立大学芸術学部入学、2002年第1回象の会奨励賞、2005年
第22回FUKUIサムホール美術展入選、第18回上野の森美術館最優秀賞
2006年第6回西脇市サムホール大賞展入選、第18回しんわ美術展入選
2014年シュル美術賞、オーディエンス賞

⑬ 野口勉



滝川太郎（1903-1970年）
「春花」 油彩・キャンバス F3号
制作：1957年 日動画廊シール



「バラ」 油彩・キャンバス F3号
制作：1961～66年頃（左手描き）

贋作画家という不名誉なレッテルを貼られたが1962年藤山愛一郎所蔵ルノアールの
絵画盗難・贋作事件を発端とした一連の過剰報道がその後も一人歩きしてしまった
ことで真相は闇に消えた。私はあの時代に一人の画家があれほどの贋作問題を一人で
起こしたとは到底思えず既存資料以外の事実関係を調べた。滝川の遺族の証言資料や
出身地松本での評判、別府大学に飾られている滝川の作品など表に出ない滝川評を検
証した結果、数人の大物が関連していることがわかり誤報道が多々あることもわか
った。これは私的考察なので世に反証するものではないが滝川は素朴な描写を得とす
る画家であったことも事実だ。紹介の静物画は共に画廊扱いで一定の評価をされたも
の。コレクションはこれ以外に風景画、版画、水彩画があるがどれも素朴で味わいが
あり良い作品である。（既存資料だけで画家を評価することは本質を見誤ることであ
り、蒐集家は懐が広くなければならないと考える。）

⑭ 鈴木忠男



作家・題名：不詳 布に墨・染料
登竜門（鯉ばね）157×34cm
制作年：江戸末

登竜門（鯉の滝登り）187×44cm
制作年：明治期

子供の日は近いこともあり節句幟（幟旗）を紹介します。
紙製の鯉のぼりの大きい（5m位）古作もあるが重いのでやめました。
幟家（北林さん）から多くの幟を購入、2009年松涛美術館に12点出品しました。
奉納幟（字幟）には年号（奉納日）があるが（絵幟）はありません。
*参考文献：「江戸の幟旗」を回覧

⑮ 福田豊万



今村花子（1979年生れ） 作品 油彩・キャンバス SM号 制作：2012年

1994年第1回ワンダーアートコレクション出品、1996年アジア太平洋障害者アートコンクール金賞、2000年具体・嶋本昭三との屏風展、2001年「21世紀アートのエネルギーをみる展」（東京品川/O美術館）、2001年 写真集『花子』出版（写真・川内倫子）
2001年ドキュメンタリー映画『花子』（監督・佐藤真）に出演（公開は2002年）
2009年個展ギャラリーヒルゲート（京都）11年、13年、15年
2011年「イノセンスーいのちに向き合うアート」（栃木県立美術館）
2012年「アートピクニック 呼吸する美術」（芦屋市立美術館）
2014年～2015年「TURN／陸から海へ」日比野克彦監修（京都みずのき美術館等巡回）

出席会員 野原宏



- ・わの会展の説明
- ・東御美術館のこと
- ・村上肥出夫展について
- ・岩崎勝平のこと

などを発表されました。

<ゲスト>大森利佳



洋画家・大森朔衛（長女）
大森朔衛の画家人生を紹介されました。
画集：大森朔衛美術館（求龍堂）

<ゲスト>石田貞雄



洋画家、自由美術協会会員
大森朔衛のこと、自身の活動のこと
などお話しいただきました。

○放談会終了後、希望者・会員7名ゲスト1名で懇親会を実施しました。

○次回放談会は平成28年7月に実施予定です。

<編集後記>

GW初日にもかかわらず多くの参加をいただきました。コレクターとしてのスタイルは多様ですが熱い気持ちは一緒ですね。自身のコレクションを紹介だけでなく他者のコレクションに対して優しく鑑賞する心も大事と感じました。今回はネット参加の試みも行い視点の違う放談会を考えてみましたが如何でしょうか。ゲストの大森利佳さん、石田貞雄さん貴重なお話をありがとうございました。（の）

発行：NPO法人あーと・わの会 通称「わの会」
発行日：平成27年11月吉日
編集：実行委員
佐藤裕幸（司会進行） 鈴木忠男（書記） 野口勉（写真・編集制作）
連絡先：事務局 〒277-0871 柏市若柴1-358 堀良慶
TEL 04-7134-8293 ryokeihori@yahoo.co.jp
発行部数：80部